



「関西大学アイスアリーナ」のオープニングセレモニーでは、村主章枝らトリノ五輪出場選手らが華麗な滑りをみせた—13日、大阪府高槻市

関大に年中OKアイスリンク

関西大高槻キャンパス（大阪府高槻市）に、通年型アイススケートリンク「関西大学アイスアリーナ」が完成し、13日、オープニングセレモニーが行われた。総工費8億円をかけたアリーナは、60歳×30分の国際競技規格。日本の大学で国際競技規格のリンクが設置されるのは初めて。

トリノ五輪出場の高橋大輔選手などが所属する同大アイススケート部などの練習場だった高槻市内の民間リンクが平成16年に閉鎖され、部の存続をかけて建設した。同大だけでなく、練習場確保に苦しむ他大学のクラブや地域の小中学生などにも開放する。

セレモニーのアイスショーにはトリノ五輪4位の村主章枝選手や安藤美姫選手も出演した。

平成18年7月14日

オーツースケートリンク閉鎖のお知らせ

関西フィギュアの拠点、来月閉鎖 - - 大阪・高槻 10/9

期待の新星・高橋ら困惑 関西フィギュアスケート界の拠点の一つ、大阪府高槻市の「オーツースケートリンク」が、11月で閉鎖されることが7日分かった。同リンクで練習を積み、国際大会で活躍する選手も多く、シーズン真っ最中の閉鎖という異例の事態に、関係者たちは頭を抱えている。

同リンクを運営する「明治開発」（本社・高槻市）から閉鎖の通告を受けたのは9月。今月2日には大阪府スケート連盟（尼子健二理事長）が同社に再考を求めたが、「既に決定済み。採算が取れない」と拒否された。さらに「せめて今シーズンが終わる3月末まで閉鎖延長を」と掛け合ったが、それも断られた。

83年オープンの同リンクでは、一般客の使用時間外を借り、60人の選手が練習している。02年世界ジュニア選手権王者で、06年トリノ五輪でも期待される高橋大輔選手（関西大）や昨シーズンの国体と高校総体を制し、織田信長の子孫としても知られる織田信成選手（大阪・阿武野高）が拠点としている。ほかに今年の4大陸選手権優勝の太田由希奈選手（京都醍醐クラブ）も練習に訪れる。/関西の屋内スケート場は、ここ数年で5場が姿を消した。オーツースケートリンクが閉鎖されれば、10カ所となる。近隣の施設は60人の選手を抱えるには規模が小さい。ほかには遠いため、全選手が通うのは難しい。来年10月に大阪市浪速区に通年用スケート場がオープンする予定だが、当面行き場を失う選手も出てくる。尼子理事長は「将来を担う若い選手がやめる恐れもある」と危機感を募らせる。

7歳から同リンクで練習を続けている織田選手は、全国の大学から誘いを受けたが、練習拠点を変えないように、地元の関西大への進学を決めたばかり。「慣れ親しんだ場所がなくなるのは不安。練習メニューも考え直さないと」とショックを受けている。

【張智彦】毎日新聞 2004年10月7日 大阪夕刊